



共生

黒木隆之 書

2018年7月

第 28 号

地域の公益的取組みと地域共生社会を考える



鹿児島県社会福祉法人経営者協議会
会長 久木元 司

厚生労働省は、平成 28 年 7 月に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部を設置し、地域全体で支える力の再構築と分野を超えた包括的な支援体制の整備を目指した「地域共生社会」の実現に向けた取組を積極的に進めている。

平成 29 年 2 月 7 日に閣議決定された「地域共生社会」の実現に向けて（当面の改革工程）の中で、2 点の改革の方向性が示された。

一点目が、公的支援の「縦割り」から「丸ごと」への転換、二点目が「我が事」・「丸ごと」の地域づくりを育む仕組みへの転換である。

具体的には、個人や世帯の抱える複合的課題などへの包括的な支援、人口減少に対応する分野をまたがる総合的サービス提供の支援、住民の主体的な支え合いを育み暮らしに安心感と生きがいを生み出す、地域の資源を活かして暮らしと地域社会に豊かさを生み出す、ことなどが示されている。

特に社会福祉法人には、地域の中での「複合的課題などへの包括的支援」や「分野をまたがる総合的サービス提供」を実現するため、分野ごとに展開する相談支援にとどまらず、あらゆる相談を受け付け、適切なサービスにつないでいく「総合相談窓口」の機能が期待されている。

全国社会福祉法人経営者協議会においては、社会福祉法人における公益的取組みを推進すべく、これまで一法人一実践活動や複数法人の連携による地域貢献活動の展開を提唱してきた。こうした取組みの中においても地域ニーズを確実に把握できる総合的相談機能の重要性が大きくなっていることは言われていた。

鹿児島県社会福祉法人経営者協議会では、ご承知の通り、平成 30 年 7 月から「かごしまおもいやりネットワーク事業」を立ち上げ、参画する各社会福祉法人にコミュニティソーシャルワーカーや相談員の配置をして頂き、地域の様々な福祉ニーズをキャッチし、社会福祉法人間の連携により様々な福祉ニーズに対応をしていく事になった。この事業の特徴は、行政、市町村社協、民生委員・児童委員の皆様方も一緒に取組んでいくことである。そういう意味からも地域共生社会の先駆けとしての取組みになることも期待されている。

また、この事業に係る人材を育成するため鹿児島県社会福祉協議会とタイアップして養成研修を行うことにしている。これは、これから国の制度政策の柱となる地域共生社会の担い手を養成する役割も担う意味も持つことになろう。

社会福祉法人の複数連携で行うこれら事業は、社会福祉法人として地域の公益的取組みの責務化を果たすことは勿論だが、それにとどまらず、地域共生社会を推進する意味で大きな役割も発揮できるものと考えている。まさに、社会福祉法人が地域の共生社会の中心軸として役割を担うことが期待されている。

平成30年度 県経営協定期総会開かれる

去る5月14日（月）鹿児島市内のホテルにおいて184法人（うち委任状80法人）の参加を得て平成30年度定期総会が開催されました。

久木元県経営協会長の開会の挨拶のあと、橋口秀仁県くらし保健福祉部次長、山田裕彰県社会福祉協議会会長に来賓のご祝辞をいただきました。

開会に引き続き、議長に隆愛会 賀寿園理事長 玉利道満氏を選出、議事録署名人二人を指名し議事に入りました。

第1号議案「平成29年度事業報告」については、「かごしまおもいやりネットワーク事業」作業部会の発足及び同検討委員会の実施、福祉施策に関する要望・提案（知事及び自民党鹿児島県連）、経営者セミナー、社会福祉法人会計研修、第5回県社会福祉法人経営者大会等が報告されました。

第2号議案「平成29年度収支決算書」は、収入の部は、会費収入、還元金収入、九社連からの助成金等説明、支出については、おおむね事業計画に基づき執行された旨の説明がなされました。また、経営者セミナーにおいては、2回目・3回目を全国経営協との共催で開催し、経費の節減につながったとの報告がなされ、このあと監査報告に引き続き審議に入り、第1号議案・第2号議案が承認されました。

次に第3号議案「平成30年度事業計画」は、生活困窮者の自立支援を目的とした「かごしまおもいやりネットワーク事業」を具体的に推進していくこと、また、全国経営協及び関係各種団体と連携し、会員法人の資質向上に向けた事業の実施に積極的に取り組むことの基本方針が示され、個々の事業についても説明がなされました。

また、第4号議案「収支予算書」においては、事業計画に基づき予算を計上した旨の説明がなされ、「おもいやりネットワーク事業」について、4月からの初期運営費が必要不可欠であるため、今年度繰越金の中から100万円を本事業へ繰り入れる旨が提案されました。このあと審議に入り、第3号議案・第4号議案が原案どおり承認されました。

最後に、「かごしまおもいやりネットワーク事業」事務センター上野事務長から、事業の現況報告がなされ、県経営協定期総会は閉会となりました。

今年度も役員一同、会員法人の運営力・経営力向上のために鋭意努めますので、ご協力方よろしく願いいたします。



久木元会長あいさつ



県くらし保健福祉部 橋口次長祝辞



県社協 山田会長祝辞

県経営協「第1回経営者セミナー」開催報告

鹿児島国際大学教授ジェフリー・S・アイリッシュ氏の『先輩達に学ぶ』・公認会計士宮川秀樹氏の『社会福祉法人経営の在り方』に248名が熱心に聴講しました。

午前中の県経営協定期総会と合わせて午後から第1回経営者セミナーが開催されました。

まず、講演Ⅰでは、鹿児島国際大学教授のジェフリー・S・アイリッシュ氏による「先輩達に学ぶ」と題しての講演がありました。ノンフィクションライターで民俗学研究者のジェフリーさんは、下甕島や川辺町土喰集落でのお年寄り（先輩達）との関わりをユーモアを交えてお話しされました。ジェフリーさんは冒頭に「私の目をとおして、お年寄りを見ていただければ」とおっしゃいました。映像で映し出されるお年寄り（先輩達）の表情は、これまでのそれぞれの人生を物語っており、ぶれない穏やかさがありました。ジェフリーさんのお話は、福祉を別の角度から改めて認識させられる有意義な講演となりました。

次に講演Ⅱでは、宮川公認会計士事務所 公認会計士の宮川秀樹氏による「社会福祉法人経営の在り方」と題して講演がありました。『福祉 (Welfare) とは、広辞林では「幸い。しあわせ。」と定義されている。』・『日本の幸せ度ランキングの推移〔世界幸福度報告書 (国連)〕』から講義が始まり、「経営者の責任」・「現状を取り巻く問題点」・「内部統制組織の整備」・「予算統制」等、法人経営の在り方について細部に渡る説明がなされました。

宮川先生には、長年にわたって県社協4階の福祉施設経営相談コーナーの兼任指導員として、皆様から寄せられた「相談・質問」の回答をお願いしております。法人経営・施設運営等につきまして、何か疑問な点がありましたらお気軽にお寄せください。

セミナーの最後は「かごしまおもいやりネットワーク事業の実施に向けて」と題して、報告を吉留康洋事業部会長が行いました。いよいよ7月から事業が開始されます。社会福祉法人の皆様、ご協力方よろしくお願いたします。

なお、今年度もこのあと第2回・第3回経営者セミナーを全国経営協との共催で実施する予定です。社会福祉法人経営者の皆様の多数のご参加を心よりお待ち申し上げます。



ジェフリー・S・アイリッシュ氏 講演



宮川公認会計士 講演



吉留事業部会長 報告

『かごしまおもいやりネットワーク事業 始まる!』

「かごしまおもいやりネットワーク事業」7月実施を前に、6月20日「事業説明会」が開催され、KKBスーパーJチャンネルでは、本事業が「地域の課題にオールかごしまで取り組みます。」と紹介されました。



「おもいやりネットワーク事業説明会」・「記者発表」報告

「かごしまおもいやりネットワーク事業」が7月1日から実施されます。この事業は、県社会福祉法人経営者協議会が、県内の社会福祉法人や県・市町村社会福祉協議会、民生委員児童委員等と連携・協働し、地域のニーズをキャッチしながら、福祉的課題や生活課題を抱える地域住民等を対象に、それぞれのネットワークを活かしつつ、社会福祉法人の持つ機能・資源を地域で活かす取り組みです。



実施に先立ち、事業説明会が6月20日、県青少年会館大ホールにおいて福祉施設関係者186名の参加のもと開催されました。

事業説明会は、県社会福祉法人経営者協議会久木元司会長の挨拶・趣旨説明に始まり、吉留事業部会長が「相談支援及び経済的支援の流れ等」について説明、また、県社協施設福祉部日高部長が「市町村社会福祉法人等連絡会」について説明しました。その後、事務センター上野事務長による「事務取り扱いについて」の説明があり、堀之内事業部副会長による閉会の挨拶で終了しました。

また、説明会に先立ち報道機関への事業紹介「記者発表」を実施しました。取材には、南日本新聞社・KTS鹿児島テレビ・KKB鹿児島放送の3社にに応じていただきました。

同日午後6時25分からのKKBスーパーJチャンネルでは「介護や障がい者施設、子育て支援など分野毎に分かれている社会福祉法人が連携して人材や資金を出し合い、生活に困っている人たちの相談に乗り支援します。」と放送されました。取材の中で久木元司会長は「複数機関の連携によって専門家など色々な人が関わり、様々な福祉ニーズに対応できるのでは」と紹介しました。

また、南日本新聞社は翌日の朝刊に「鹿県内の社会福祉法人連携、生活困窮者を支援」との見出しで掲載しました。

なお、KTS鹿児島テレビは、放映日は後日お知らせしますとのことでした。報道機関各社の取材・放映に感謝いたします。

「おもいやりネットワーク事業」では、来る8月7日・8日に相談員及びコミュニティワーカー養成研修会を予定しております。多数ご参加ください。

また、本事業への加入・参画につきましても、よろしくお願い申し上げます。



日々勉強

社会福祉法人興正会 特別養護老人ホーム出水の里
施設長 小幡 興太郎



私たちの法人は昭和57年に自分の親のお世話をする気持ちを大事に、「喜心」喜んでお世話させていただきます。「老心」目配り気配り思いやりの心「大心」広い心で受け止める。精神を理念とし創立されました。法人で最初に開所したのは軽費老人ホーム鶴水園でした。60歳からの身の回りことが出来る方が入所できる軽費A型として開所しました。施設運営していく中でご利用者様からこの地で最期を迎えたいというこえもあり、平成10年8月に同一敷地内に特別養護老人ホーム出水の里を設立。平成12年には介護保険も始まりました。介護保険は高齢化や核家族化の進展等により要介護者を社会全体で支える仕組みとしてつくられましたがこの制度の一つに社会的入院の解消があり在宅介護を促す意図がありました。しかし、24時間提供する介護サービスの不足もあり重度介護者の在宅介護は困難なことが多く特別養護老人ホームへの入所希望も増えたのであります。平成15年には特別養護老人ホームへの入所基準も変わりそれまでは入所申し込み順とされていたものから施設入所の必要性の高い申込者の優先的入所に努めることが義務化されました。平成27年には要介護3以上の方しか原則特別養護老人ホームには入所できなくなり施設の重度化が進み状態の不安定な利用者様が増え体調が悪くなるとすぐに受診し点滴治療や入院、病院での最期といったケースが増加傾向にありました。

特別養護老人ホーム出水の里が開所したとき体調の悪い利用者様を嘱託医の先生に診てもらいどうにか入院させてもらえないかお願いしたら先生は私たちに、「このおばあちゃんにっぱい管をつけてどうするの。寂しい病室に一人それが嫌だからおばあちゃんは特別養護老人ホームに入所したんじゃないのね。あなたたちが利用者の生活を支えるということは施設でいつか生活して体調悪くなったら病院に送ることが仕事ね。」と言われたことがあります。この施設をなぜ設立したのか、この地で最期を迎えたいという声があったから設立したのではと反省しました。

最終を医療でと希望される利用者様、御家族。施設でできる範囲内での生活を望む利用者様、御家族、どちらのケースもあります。その要望に応じて現在施設では看取りケアを実践しています。最後をどう迎えればいいのか看取り途中で気持ちが揺れる御家族、気持ちの整理がつかない御家族もおられますが、その利用者様にとってどの選択がいいのかケアをしていく私たちも本当にこれでよかったのかと苦しむときもあります。日々の何気ない業務の中で私たちは利用者様と向かい合うときは施設理念を念頭において利用者様に携わり穏やかに最期を迎えて下さればと日々感謝、日々反省の気持ちで利用者様を通して勉強させていただき今後も看取りケアを進めてまいりたいと思います。

県社会福祉施設経営相談コーナー

県社会福祉施設経営相談コーナーでは、職員を配置し、文書、電話等により法人経営施設運営に関する相談を受け付けています。

秘密は厳守され相談は無料ですのでお気軽に御利用ください。

◇専任指導員 1名

◇兼任指導員（公認会計士）1名

◇顧問弁護士（県経営協による委嘱。内容により弁護士会所定料金が必要になります。）

◎連絡先：TEL 099-257-9885 FAX 099-250-9358

◎担当：中島・藤井



ホームページを作りました



<https://www.kagoshimakeieikyo.com>



QRコード

携帯のバーコードリーダーでQRコードを読み取ることで、携帯版ホームページへアクセスできます。

●●●●●●●●●● **経営協** ●●●●●●●●●● に加入しましょう!!

私たち社会福祉法人が果たしている役割を広くアピールしながら、身近な社会福祉増進にさらに貢献できるよう、全国経営協に結集して会員の充実・強化に向けた政策提言を進めていきます。
 ……組織力を高めて「経営協」を大きな力にしていこう! ……

加入申込は県経営協事務局まで TEL 099-257-9885



事務局便り

【これからの経営協の取組み（予定を含む）】

平成30年7月1日現在

月	日	行事名	場所	主な内容等
30年7	9	第1回会計研修	城山ホテル鹿児島	会計基準基礎等及び質疑応答
7	24	第2回経営者セミナー	//	「人材確保」・「公益的な取組」等（前期）
7	27	九州ブロック会議	福岡市	全国経営協九州ブロック会議
8	7~8	「かごしまおもいやりネットワーク事業」相談員・コミュニティワーカー養成研修会	県青少年会館大ホール 県社会福祉センター内 7階大会議室	事業の要である支援活動の担い手として、相談員及びコミュニティワーカーの養成を目的とする研修
9	20~21	全国経営者大会	長野県長野市	テーマ「輝かしき社会福祉法人の創生」
10	中旬	第2回会計研修	未定	会計実務講義及び質疑等対応等
10	中旬	知事への要望	県庁	各種別協の要望事項等
12	初旬	第6回鹿児島県経営者大会	未定	全国経営協セミナー（後期） 基調講演、記念講演、分科会
30年1	下旬	第3回会計研修（奄美会場）	未定	決算会計業務及び質疑応答等
2	上旬	第3回会計研修（鹿児島会場）	未定	決算会計業務及び質疑応答等
2	中旬	有識者懇談会	未定	指導監査結果及び課題等の意見交換